

働く「なでしこ」大作戦の推進 ～ポジティブ・アクションの促進～

労働力人口が減少するなか期待される女性の活躍

労働力人口が減少していくなかで、意欲ある女性が活躍できる環境を整備していくことは、労働力確保の観点からも、経済活性化の観点からも重要です。女性の活躍促進を図るためには、経営者が経営戦略として取り組む姿勢を明確にするとともに、男女労働者の間に生じている事実上の格差の解消を目指す具体的なポジティブ・アクション（積極的な改善措置）が不可欠となっています。

さらに、女性の活躍が進んでいる企業ほど経営指標が良く、株式市場での評価も高まるといったデータや、女性が出産後も継続就業した場合のほうが、退職してしまう場合より企業の負担が小さいといったデータも見られます。このように、女性の活躍促進によって経営効果が期待されるのです。

働く「なでしこ」を応援します

6月22日に開催された「女性の活躍による経済活性化を推進する関係閣僚会議」において、『女性の活躍促進による経済活性化』行動計画～働く『なでしこ』大作戦～』がとりまとめられました。厚生労働省では、第27回男女雇用機会均等月間に合わせて、今年6月から先行的に「女性の活躍促進・企業活性化推進営業大作戦」を展開しています。

具体的には「女性の活躍促進・企業活性化推進営業チーム」を設置し、

- ① ポジティブ・アクションの取り組み促進のための企業訪問
- ② ポジティブ・アクションの取り組み促進の働きかけ
- ③ 企業の情報開示促進の働きかけ※

を実施するというものです。

2015年度までに営業企業数2万1000社、ポジティブ・アクション取り組み企業数1万2600社、女性管理職比率などの情報開示や取り組みについての宣言を行う企業数5000社を達成するという目標を掲げています。

※ 厚生労働省のポジティブ・アクション情報ポータルサイトを利用した女性管理職比率などの情報開示や、ポジティブ・アクションに積極的に取り組むという宣言をすることの勧奨。CSR報告書等での情報開示の勧奨



「女性の活躍促進・企業活性化推進営業大作戦」で企業を訪問。

朝日生命保険相互会社 佐藤美樹社長（写真左）と
高井康行雇用均等・児童家庭局長（右）